

第4回日本海横断航路のあり方検討委員会 議事概要

1 開催概要

日 時：平成29年11月17日（金）14:30～16:20

会 場：新潟県自治会館別館 第2研修室

2 議事要旨

(1) 詳細調査の実施について

事務局から資料1により採算性に関する詳細調査の状況について説明。

<委員からの主な意見>

- ・聞くことをピンポイントで集中して聞いた方が、アンケートを受ける側は答えやすい。
- ・航路の利用可能性については、利用しないと答えた方に、何がネックで利用しないのかを聞くとよいと思う。

(2) 事業スキームの検討について

事務局から資料2により、極東ロシア航路に関する他港ヒアリング結果、資料3によりこれまでの検討を踏まえた事業スキーム案について説明。

<委員からの主な意見>

○航路の意義について

- ・新潟港全体の戦略の中で、横断航路をどうするのかという観点と、将来の需要の変化等を見込みつつ、各段階でどのような対応が採れるのかという観点でも考えた方がよい。
- ・拠点性の議論をするのであれば、対岸地域との航路に限定しない方がよい。
- ・航路については意義と採算性の両方の観点から見る必要があり、採算性だけでなく、航路を開設することで新潟県にどのような波及効果があるのか、定量的には難しくとも、定性的には、押さえるべき。

○航路の需要について

- ・ヒアリング結果からも貨物がキーワードであり、需要があるかどうか、もう少し精査しなければならない。
- ・貨物の現状については、運送事業者や商社が幅広く承知していると思う。
- ・需要の調査をした上で、需要が見込めて本腰を入れて進めるのであれば、運航会社を設立して船舶を確保して運航するというスキームで動いた方がよい。
- ・船会社は新規航路を開設して利益を得られるのかイメージしながら話をするもの。時間がかかるということは十分認識しながら話をしていく必要がある。
- ・航路を運航する際には、集荷だけでなく、対岸地域とのビジネスを増やすなど、創貨の活動を進めることが必要。
- ・創貨をするのは企業であり、航路はそのためのツールとしてアピールするもの。

- ・旅客は難しいということが、ヒアリングの内容にも出ており、大局は間違いな
いだろうと思う。

○その他

- ・支援体制については、現段階では判断が難しい。
- ・トライアルという形で実際に検証することも必要。

以上